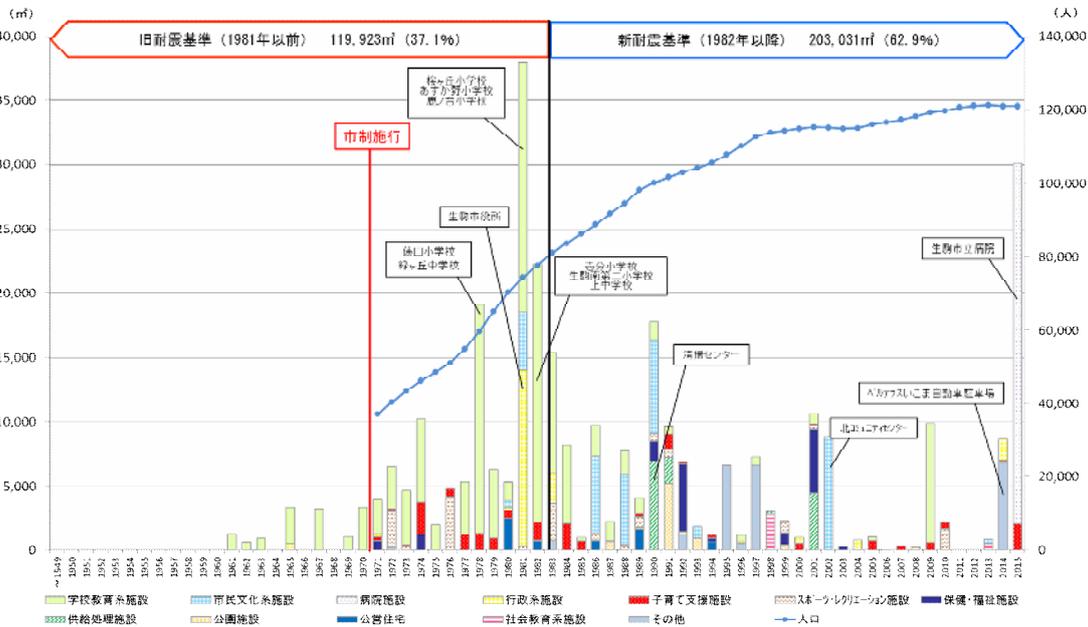


公共施設の現状とファシリティマネジメントについて

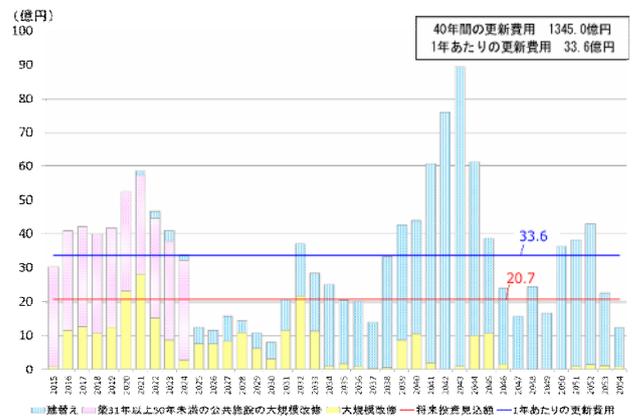
1 公共施設の現状

1971年の市制施行後、人口の急激な増加に併せて公共施設の整備が進められてきた。そのため、建設から30年以上経過する施設が50%以上を占め、今後保全・更新に多額の費用が必要となる。



2 将来の更新費用の推計

今後40年間で1,345億円、1年あたり33.6億円の更新費用が必要となる結果となった。これは、過去5年間の投資的経費の平均額（将来投資見込額）の1.6倍に相当する金額であり、今後全ての公共施設を維持し続けることは不可能である。



3 ファシリティマネジメントとは

ファシリティマネジメントとは、公共施設等（公共施設とインフラ施設）について、長期的な視点で、更新・統廃合・長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することである。

財政状況の悪化や人口減少・少子高齢化の進展、施設の老朽化等の課題がある中、全ての公共施設等をこれまでと同じように維持・更新していくことは困難であり、これからの時代にあった公共施設等のあり方を検討していくことが求められる。

こういった状況を受け、本市では、「長寿命化の推進」「公共施設等の適正配置」「民間活力の導

入」を基本方針として定めた「生駒市公共施設等総合管理計画」を平成28年3月に策定した。

4 今後の取組

(1) 生駒市公共施設マネジメント推進計画の策定

公共施設等総合管理計画に定める基本方針のうち、「公共施設等の適正配置」についての具体的な方針を定めるもの。対象を公共施設に絞り、建物の状況や利用状況、コスト状況、市民アンケート結果など様々な視点から、各公共施設について評価を実施し、施設の今後の方向性を明らかにする。

<取組内容>

- ① 施設カルテの作成：施設に関するデータの洗い出し
- ② 施設評価：1次評価（建物評価・機能評価）、2次評価（数値で判断できない定性的要素）
- ③ 施設類型ごとの基本方針：施設類型ごとに各施設の今後の方向性を決定
- ④ 公共施設マネジメント推進計画素案作成

(2) 個別施設計画の策定

公共施設マネジメント推進計画に掲げる基本方針を実行するための計画である個別施設計画を策定し、実行する。

